

日府展に水墨画部および写真部を新設

日府展（一般社団法人日本画府、理事長南部祥雲）は、平成28年5月開催の第63回日府展から、水墨画部および写真部を新設します。

墨色の濃淡、にじみ、かすれなどを表現の要素とした水墨画は、鎌倉時代に禅と共に中国から伝わり、雪舟、狩野派、淋派、等伯など、水と墨による表現を追求した多くの作家や、その画に親しみ、その美を愛した多くの人々により、現代へと繋がれてきました。

しかし、いま筆と墨とは身近なものではなくなり、美術大学に水墨画の学科はなく、総合の美術展も水墨画を単独の部門とするものはありません。

関西に拠点を置く日本水墨画美術協会（理事長山田大作）は、そのような状況を打開し、水墨画を美術の独立確固とした分野として樹立すべく、積極的な表現活動を行ってきました。その活動をより確かなものとするため、山田理事長をはじめとする同協会の主要メンバーが、来年の第63日府展に出品することになりました。一般出品者も含め、20名ないし30名の出品が予想されます。

受け入れる日府展は、川端龍子に師事し青龍社展で活躍していた児玉三鈴が、昭和31年、石田粧春ら同志と相寄り公募団体日本画府を結成、展覧会名を日府展として第1回展を開催したことに始まります。その後昭和36年、日本美術院彫塑部解散に伴い、矢崎虎夫ら同部有志を併合して彫塑部を併設、昭和38年には洋画部、工芸部を新設して総合展に改組しました。

龍子も三鈴も水墨画を良くし、多くの傑作を残しています。その流れを汲み、日府展にはこれまでも、日本画部の中に数は多くないものの水墨画が出品されてきました。今回、纏まった点数の出品が予定されていること、また日本水墨画美術協会の「水と墨のみ」とし、彩色不用に拘る姿勢を尊重する意味から、63回展から水墨画部を日本画部から独立した部として迎え入れる判断をしました。水墨画の単独部門は、全国レベルの公募の総合展としては初めてとなり、大いに期待されます。

水墨画部と同時に写真部も新設することになりました。

近年、画材や情報処理技術の進歩に伴い、芸術表現も多様化し、美術の世界でも新しい表現方法が生まれ、また境界が曖昧になりつつもあります。写真の分野では、デジカメがあっという間に銀塩フィルム写真に取って代わり、それ以前からあったオートフォーカス、自動露出などの技術と相まって、初心者でも高いレベルの写真が撮れるようになりました。

一方、サッカーや鉄道ファンなどの例を引くまでもなく、これまで主に男性の分野とされていたスポーツや趣味の世界への女性の進出はめざましいものがあります。このことは写真の世界も例外ではありません。有名な観光地や撮影スポットでも、女性

カメラマンの姿が多く見られるようになりました。操作が容易になったカメラと、女性特有の視点が出会って、新しい写真表現が生まれて来つつあるようにも思われます。

日府展に写真部を新設するにあたっては、創立時からの「権威や理論に囚われることなく、自由かつ明朗な芸術を創作する」という理念に基づき、分野や技法に拘らず、写真を通じて芸術表現をしようと励んでいる人達に、新しい発表の場を提供しようとするものです。

団体展の衰退が叫ばれて久しい今日ですが、水墨画部および写真部の新設を起爆剤とし、日府展は6部門を擁する総合美術展として、新しい繁栄の時代を切り開いていく所存です。

平成27年11月

一般社団法人日本画府
理事長 南部 祥雲
事務局長 青木九仁博
事業局長 廣島 樹

事務所 176-0023 東京都練馬区中村北 1-13-18
練馬スカイホーム7F
TEL/FAX 03-3970-2230
<http://nipputen.sakura.ne.jp/>
E-mail nipputen@galaxy.ocn.ne.jp